

第7期第6回あま市まちづくり委員会 会議録要旨

と き 令和7年5月19日（月）

午後2時～午後3時30分

ところ あま市役所 2階 E会議室

1. 出席者等

委 員	11名
事務局	3名
傍聴人	1名

2. 委員長あいさつ

3. 議題 現案に対する市からの報告

昨年度の協議内容を基に市からの報告を会議資料のとおり行い、事務局案の承認を得られたが、実際の運用において、以下の懸念点及び指摘が上がったため、継続審議となった。

【以下委員意見抜粋】

(1) 周知広報関連

- ・企画内容が端的にわかるキャッチーなワードがあるとよい。
- ・市公式ウェブサイトに応募に当たっての注意事項を記載しては。
- ・二次元コードを上手く活用しては。二次元コードを記載したカードを作成すれば、その場で読み取ってもらう等して直接周知しやすい。
- ・チラシも必要か。
- ・市の事業である「あまつり」や「あまのわ」だけでなく、観光協会や商工会の事業でも周知できるのでは。
- ・サンプル動画を作成し、こんな感じ…というのを示しては。また、サンプル動画を流せる端末はあるか。
- ・作成動画をモニターで常時再生し、その横に二次元コードを記載した周知用チラシを設置しては。

(2) 応募管理関係

- ・参加ハードルを低くしたい。同意書の受付や、応募方法が煩わしいと思わせない配慮が必要。
- ・大好きはなかなか言いにくい、まあまあ好きくらいの方がいいやすく心のハードルも下がるのでは。

- ・メール応募の場合は、添付データの容量により市側が受信できない場合がある。また、受信容量の問題もある。
- ・インスタグラムから動画は、ダウンロードできないのでは。
- ・Google フォームを活用すると、集計しやすいのでは。市でアカウント運用ができるかどうか（市公式 YouTube に紐づくアカウントがあるのでは）。
- ・Google フォームで応募してもらうにしても、応募者も同フォームアカウントを有している必要があるのではないか。市側の受信体制（容量的な面含む）も確認が必要。動画は Google Workspace がないと管理できないのではないか。有料となるかどうか併せて確認が必要かと。有料の場合は、承諾の部分だけでも Google フォームを活用してはどうか。
- ・周知同様に二次元コードを上手く活用し応募フォームへ誘導しては。
- ・泥臭くアナログで集めるのもいいと思う。
- ・応募者全員を掲載する必要はないと思う。ルール化する際に基準の検討が必要。
- ・既存＃を起用すると応募意思の有無に関わらず、集計してしまうので、応募形式がよいのでは。新規＃ならよいだろう。
- ・市の事業である「あまつり」や「あまのわ」だけでなく、観光協会や商工会の事業でも応募窓口を設置できるのでは。
- ・あまのわはボランティア学生も協働するので、協力を得やすいのでは。
- ・何人分のデータが必要か。合計で何分の動画とするか。
- ・動画尺は一人10秒程度でもよいのでは。

(3) その他

- ・シビックプライド醸成が目的、人数の多少は関係ないが、提言書に人数は記載すべきだろう。
- ・7期（令和7年度内）でやりきる必要はあるか。実施に向けた提言でもよいのでは。
- ・委員から指摘を踏まえ、予算ゼロでできることを再確認すべき。
- ・まあまあ好きからどれだけすごく好きまで持っていくかっていうのが、シビックプライドの醸成では。
- ・元々は「シビックプライド」とは…？から議論がスタートしている。投稿者が出演する必要があるのか。あま市の良いところそのものを紹介しないと本当の意味でシビックプライドを聞き取れないのでは。
- ・インタビュー形式の場合、「〇〇が良い」など表面的なところを言ってもらっても、深くないとシビックプライドが伝わらないのではないか。